第 10 回京田辺市史編さん委員会（会議要旨）

日　時：令和 8 年 10 月 2 日（金）　14 時 00 分～14 時 40 分
場　所：京田辺市役所　403 会議室
出席者：〈委　員〉向井委員長、井上副委員長、小林委員（※）、東委員、岸委員（※）、
上杉委員（※）、林委員、木村委員、古谷委員　　※…遠隔での参加
（欠席）菱田委員
〈事務局〉西村副部長、坂本室長、大屋担当係長、松本主査、鈴木会計年度任用職員

１．開会
・井上委員を副委員長に選出。

２．議事
１）令和 7 年度の事業実績について【事務局から説明】
（特に発言はなし）

２）令和 8 年度の事業について【事務局から説明】
（特に発言はなし）

３）既刊について【事務局から説明】
・令和 7 年度末に、4 冊目となる『資料編第 2 巻　中世・近世資料』を刊行した。既刊同様、1 部 3,000 円で販売し、市役所や中央公民館内の市史編さん室の他、住民センターや観光協会、山城書店、アルプラザ京田辺店などで販売を行っている。（事務局）
・既刊の販売部数を教えてほしい。（井上副委員長）
・全巻を通しては、令和 8 年 9 月までに 294 冊を販売した。昨年度実績では、第 3 巻 14 冊、第 4 巻 71 冊、第 5 巻 26 冊、計 111 冊を販売した。（事務局）
・その程度のペースでよいと事務局では判断されているのか。自治体史は売れ残り、たまっていくことが多いが、今のところそうではないということか。また残部はどれくらいか。（井上副委員長）
・当初見込んでいた予算より販売部数は大きく上回っている。財政当局と話をする際にも、予想より売れているという評価を得ており、大きく売上を伸ばしていく必要があるという認識はしていない。去年は 30 万円程度の売り上げがあり、販促をしなければいけないというような状況ではない。各刊によって謹呈部数、発行部数が異なるのでだいたいの冊数ではあるが、残部は全巻でおおよそ 1200～1300 冊ぐらいとなる。（事務局）
・意外な結果だが、その点は外部にアピールしてもいいのでは。湿気るので保管には注意されたい。（井上副委員長）

4）今後の刊行巻について【事務局から説明】

・今年度は、『本文編第 2 巻　近世・近代・現代』の刊行を予定している。印刷業者は昨年度と同様に河北印刷となっており、現在校正のやりとりを行っている。次年度には『本文編第 1 巻　先史・古代・中世』の刊行も予定しており、ご執筆を進めていただいている。また刊行予定について、次のように変更、延長したい。（事務局）

　・現状として、『資料編第 1 巻　考古・古代資料』は令和 8 年 3 月の刊行予定だったが、執筆の遅れにより刊行できなかった。これに伴い『本文編第 1 巻　先史・古代・中世』の令和 9 年 3 月刊行も難しい状況となった。

　・そこで執筆状況を踏まえ、本来の刊行順を変更し、『本文編第 1 巻　先史・古代・中世』を刊行した後、『資料編第 1 巻　考古・古代資料』を刊行することにしたい。この点については、考古・古代・中世の各執筆者にも了承を得ている。

　・この変更案では、『本文編第 1 巻　先史・古代・中世』の刊行が 1 年延長して令和 9 年度になり、『資料編第 1 巻　考古・古代資料』の刊行が 3 年延長して令和 10 年度となる。なお『本文編第 2 巻　近世・近代・現代』は予定通り令和 8 年度末に刊行する。

　・本文編全 2 巻と資料編全 5 巻の成果を活用した IT 市史については、2 年延長して令和 10 年度以降の公開となる。

・本文編第 1 巻の目次は粗々のタイトルか。縄文時代草創期、縄文時代早期と言われてもわからないので、中身を象徴するようなタイトルとなるようにお願いしたい。また古代の内容についてはまだ具体的な構想が立っていないということだと思うが、「隼人」という、本市にとって重要なポイントがくると思うのでよろしくお願いしたい。（井上副委員長）

3．その他

1）市史編さん事業の情報発信について【事務局から説明】

・写真資料もかなり集めていると思うので、極力使うようにお願いしたい。写真は人によく訴えるし、非常に面白いと思っている。（井上副委員長）

・IT 市史について、web や広報などの紙媒体でも掲載されているが、反響はあるか。反響があればモチベーションがあがるので、教えてほしい。（東委員）

・お問い合わせがたくさんあるわけではないが、例えば桃の記事を載せると、今でも穫れるのかとお問い合わせがあるなど、コンテンツによって濃淡はあるが一定の反響はあり、ご覧いただいているかなと思う。（事務局）

・市史編さんについては企業版ふるさと納税をいただいたり、市民の方々からがんばって刊行してくださいと激励のお言葉もいただいたりしている。この事業については、市としても全力を尽くして参りたいと考えている。（向井委員長）

・IT 市史は将来的には画面だけで見るというかたちになるのか。あるいは写真も載せながら冊子になるということはあるのか。（林委員）

・IT 市史自体が web サイトでの検索性や、データなどを学校教育の場でも扱いやすくする

という目的で始まっており、紙媒体にまとめることは事務局としては考えておらず、データのかたちで運用したいと考えている。（事務局）

２）その他意見等

（特に発言はなし）

４．閉会

・他に意見がないようなので、これで終了する。（向井委員長）